

あくろいし 市議会だより



黒石市手話言語条例の可決を喜ぶ様子

黒石市手話言語条例が 可決されました

平成28年9月16日、当市議会において県内では初となる「手話言語条例」が可決されました。この条例は、ろう者が手話で円滑な意思疎通を図る権利を有するとして、その権利を尊重することを基本としており、ろう者の自立した生活や社会参加を保障するような施策の推進を市の責務に位置づけました。

この日、議場には、青森県ろうあ協会、黒石ろうあ協会の皆さん達が傍聴に訪れ、条例の可決を喜びました。



目次

- 定例会の概要 …… 2～3
- 定例会一般質問 … 4～5
- 常任委員会活動報告 … 6
- 行政視察報告 …… 7
- 青森県市議会議員研修会など … 8

平成28年第3回定例会の概要

平成28年第3回定例会は9月1日から16日までの16日間にわたって開かれ、市長提出の4報告・35議案を、慎重な審議の上、いずれも原案どおり承認・報告・認定・可決・同意しました。

また、開会日に全議員で構成される決算特別委員会が設置され、委員長に大溝雅昭委員、副委員長に今大介委員を選任。13・14の両日で平成27年度一般会計、各特別会計、各財産区会計、各事業会計決算の審査を行いました。

各議案の議決結果と各会派の賛否一覧は下記をご覧ください。

平成27年度黒石市一般会計歳入歳出決算認定 討論

反対討論

まち・ひと・しごと創生事業に関して、地方自治体は取りまざるを得ないが、立ち上げた事業が継続、発展していけるかという財政的な保障はない。財源が消費税増税を前提としていることや、地方交付税が取り組みの必要度、成果で算定されることから、取り組みによっては、事業を続けることが難しくなる可能性もはらんでいる。

また、まち・ひと・しごと創生事業に取り組む一方、本市の暮らしや社会保障分野では、子供の医療費無料対象が就学前まで、保育料が高い、家庭用ごみ袋が高いといった問題の軽減が図られていない。

以上のことから決算認定に反対する。

賛成討論

国が地方の必要に応じて財政措置をできるほど潤沢な財政状況にないため、地方が必要とする事業をみずから創出し、その事業に交付税措置をしていくという考え方は間違っていない。

また、本市の平成27年度実質収支は黒字であり、財政調整基金も増額となったことは節度ある予算執行の結果である。このことは、市の大きな課題である財政健全化、そして今後の大型事業のための財政確保という観点から評価に値するものである。

各施策においても、限られた財源で有効かつ効率的に展開していると認められる。

以上のことから決算認定に賛成する。

この他、「平成27年度黒石市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について」及び「平成27年度黒石市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について」においても、反対・賛成討論がありました。

第3回定例会の報告と各会派の賛否一覧 (○は賛成、●は反対)

番 号	件 名	会 派 名					議決結果
		自民・公明 クラブ	黒石市民 クラブ	日本 共産党	高佑会	新政会	
報告第25号	平成28年度黒石市下水道事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	承認
報告第26号	黒石市温泉供給事業特別会計経営健全化計画の完了について	○	○	○	○	○	報告
報告第27号	黒石市財政の平成27年度決算に基づく健全化判断比率について	○	○	○	○	○	報告
報告第28号	黒石市公営企業の平成27年度決算に基づく資金不足比率について	○	○	○	○	○	報告



番 号	件 名	会 派 名	自民・公明 クラブ	黒石市民 クラブ	日本 共産党	高佑会	新政会	議決結果
議案第57号	平成27年度黒石市一般会計歳入歳出決算認定について		○	○	●	○	○	認 定 (起立多数)
議案第58号	平成27年度黒石市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について		○	○	●	○	○	認 定 (起立多数)
議案第59号	平成27年度黒石市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について		○	○	○	○	○	認 定
議案第60号	平成27年度黒石市姥懐霊園墓地特別会計歳入歳出決算認定について		○	○	○	○	○	認 定
議案第61号	平成27年度黒石市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について		○	○	●	○	○	認 定 (起立多数)
議案第62号 ↳ 議案第66号	平成27年度黒石市観光施設事業特別会計、簡易水道特別会計、温泉供給事業特別会計、農業集落排水事業特別会計、土地取得特別会計歳入歳出決算認定について		○	○	○	○	○	認 定
議案第67号 ↳ 議案第72号	平成27年度黒石市中川財産区会計、上十川財産区会計、追子野木財産区会計、温湯財産区会計、袋財産区会計、南中野財産区会計歳入歳出決算認定について		○	○	○	○	○	認 定
議案第73号 ↳ 議案第75号	平成27年度黒石市国民健康保険黒石病院事業会計、水道事業会計、下水道事業会計決算認定について		○	○	○	○	○	認 定
議案第76号	黒石市手話言語条例制定について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第77号	黒石市介護保険条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第78号	黒石市国民健康保険黒石病院事業の設置及び経営の基本に関する条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第79号	財産の処分について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第80号	弘前圏域定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定の締結について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第81号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		○	○	○	○	○	同 意
議案第82号	平成28年度黒石市一般会計補正予算（第3号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第83号	平成28年度黒石市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第84号	平成28年度黒石市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第85号	平成28年度黒石市姥懐霊園墓地特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第86号	平成28年度黒石市介護保険特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第87号	平成28年度黒石市簡易水道特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第88号	平成28年度黒石市温泉供給事業特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第89号	平成28年度黒石市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第90号	平成28年度黒石市土地取得特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第91号	平成28年度黒石市下水道事業会計補正予算（第2号）		○	○	○	○	○	原案可決



第3回定例会一般質問



新政会
三上 廣大 議員
(一問一答方式)

問 黒石ねぶた祭りの課題について、当市の考えは。

答 昨今の少子高齢化など社会情勢の変化等により、祭りに携わる市民の減少や、それに伴うねぶた会運営の厳しさが懸念材料となっています。それらに起因する運行台数の減少、中でもここ数年の人数ねぶたの減少が一番の課題だと考えています。有志による新たな団体が増える一方、今年には全体で4団体が減少し、1団体が人形から扇へ変更となりました。町内や子ども会での運行団体が減少していることで、黒石ねぶたらしさが薄まりつつある現状を憂慮しています。

問 ねぶたの合同運行について、観光施設のある通りや八間道路からスタートするなど、運行コースを見直す考えは。



自民・公明クラブ
大溝 雅昭 議員
(一問一答方式)

問 中町こみせ通りや八間道路は集客という点でも素晴らしい環境だと考えます。しかし、運行コースの見直しについては、主催者の黒石青年会議所と協議して祭りの方向性が定まった時点でのおのずと検討課題になると思われま。

問 選挙権年齢引き下げについて、対策と効果は。

答 参議院選挙前には高等学校で出前講座を行った他、18歳・19歳の新有権者に選挙をお知らせする「かもめーる」を郵送するなど啓発活動を行いました。参議院選挙における当市の投票率は全体で8.25割増の53.73割で県内10市中9位でした。18歳・19歳の投票率は44.04割となり10市中3番目の高さで、選挙権年齢引き下げは投票率向上に効果があったと考えます。

問 黒石ねぶた祭りの状況と対応は。

答 合同運行の入り込み数は6万2千人で昨年より2千人の減少でした。運行台数は人形ねぶた5台を含めて56台で、昨年より4台減少しました。平成24年度から人形ねぶた助成金を再開していますが、台数の減少対策を主催者とも協議していきます。

問 黒石よされの状況と対応は。

答 流し踊りの参加団体は昨年より2団体減少し33団体、参加者数は200人減少し3千600人でした。来場者数は雨の影響もあり1万人減少し7万5千人でした。今後は、黒石よされ大好き人間を増やし、インバウンド対応もしていきたいと考えます。



自民・公明クラブ
今 大介 議員
(一括方式)

問 図書館建設について、市長の考え方は。

答 黒石図書館づくり市民の会などから図書館建設の要望をいただき、必要性を十分認識していますので、早い時期に整備に取り組みたいと考え

ていますが、当市の山積している課題解決と財政状況を見ながら検討します。また、庁舎耐震不足のための機能分散や、旧大黒デパートの跡地利用などの問題解決も含め、まちづくりの観点からも総合的に判断し、早い時期に検討していきます。

問 中学校適正配置について、スクールバス運行は決定したのか。また、通常下校と部活動終了後の下校の対応は。

答 東英中学区は路線バスを活用することで調整しています。六郷中学区については、路線変更や路線の新設が難しいことから、業務委託によるスクールバスの運行を進めています。また、六郷中学区は登校時1便、下校時は通常下校用と部活動終了後の下校用として計2便、合計で1日3便を計画しています。東英中学区についても、できるだけ対応できるように、路線バス運営会社と協議を続けています。



自民・公明クラブ
中田 博文 議員
(一問一答方式)

問 スポカリン黒石の指定

管理料と運営状況は。
答 平成28年度の指定管理料は5883万3千円です。年間の利用者数は27年度が約12万人で、年々増加しています。広告掲出物の利用料金は28年度現在で19件、78万円となっており、施設の修理修繕等に充てています。

問 津軽伝承工芸館の指定管理料と運営状況は。

答 平成28年度の指定管理料は5220万円で指定管理者である株式会社ツガルサイコーに支払うことになっています。年間の入込数は27年度が約11万人でした。運営方法については、次に指定管理者を公募する際、費用の軽減等もあわせて考えたいと思います。

問 図書館早期建設の実現は。

答 市の財政は厳しい状況ですが、早い時期に検討したいと考えています。
問 まちなかの活性化のためにも成人式を市街地で開催する考えはあるか。
答 スポカリン黒石や中央スポーツ館の設備など実施に向けてのクリアしなければならぬ問題を探り、開催場所の変更について、調査・検討



したいと思っています。



高佐会
高橋美紀子 議員
(二問一答方式)

○ 学校給食について、在籍する学校による保護者負担の給食費の差を解消できないか。

○ 小学校の完全給食実施に当たっては、格差の解消も含めた運営形態や給食費などについての検討も必要と考えています。

○ 災害時の対策について、市全体のマニュアル作成および市庁舎等の避難訓練実施はどうかっているのか。

○ 市全体のマニュアルについては、県が修正中の県地域防災計画を踏まえる形で、当市における地域防災計画の改正を平成29年度に行います。市庁舎の避難マニュアルについては、市庁舎等耐震対策庁内検討委員会が作成したことを受けて職員へ通知し、今年度はその内容を含む避難訓練を行う予定です。市全体の訓練については、浅瀬石地区を会場として、地震災害を想定した黒石市総合防災訓練を10月27日に実施します。

〈その他の質問〉

人口減少問題について。子育て世代包括支援センターについて。ふるさと納税における現状、市民を巻き込んだ対策、市民の他自治体へのふるさと納税、当市出身者へのPRについて。



自民・公明クラブ
工藤 俊広 議員
(二問一答方式)

○ 観光行政について、近隣市町村との連携やSNSによる情報発信は。

○ 津軽南地域の観光情報発信アプリを7月から配信しています。定住自立圏での観光連携を図るとともに当市の観光資源をさらに磨き上げていくことが近隣市町村からの誘客につながるかと考えます。SNSによる観光情報発信の必要性は感じており、現在はフェイスブックによる情報発信を行っています。今後の取り組みとしては、インスタグラムやWiFi環境の整備、SNSに対応するためのルール作りを進めたいと思います。

○ まち・ひと・しごと創生総合戦略について、人口の推

移と事業評価は。

○ 出生、死亡、転入は減少傾向で、転出は増加傾向です。平成27年度事業の評価が高かったものとして黒石米活用検討実験事業、黒石駅前観光案内所整備事業、子育て世代包括支援センターとの連携、健康マイレージ事業が挙げられます。一方、評価の低かったものに移住情報発信事業や黒石よされ事業があります。今後PDCAサイクルにより事業の改善を行います。



日本共産党
工藤 禎子 議員
(二問一答方式)

○ 黒星病の原因と現状、今後の対策は。

○ 今年は例年に比べて雪解けが早く生育が早まったことから、原因菌の胞子飛散が4月中旬の第1回目薬剤散布前となり、感染が多発した可能性があると考えられています。当市においては農業者の適正な防除により被害果の発生・拡大が抑制され、また、適切な処理により他地域に比べ被害が少ないものと認識しています。来年は第1回目薬剤散

布の早期実施、芽出し時期の薬剤散布を追加し、防除対策の見直しを含めた検討や関係機関と連携をとった情報提供により、黒星病撲滅に努めていきたいと考えています。

○ 黒星病に対する薬剤の効果が薄くなっていないか。また、薬剤散布時期や回数などを記す「りんご病害虫防除暦」を生産者の要求も組み入れながら作成すべきでは。

○ 確かな研究機関の情報を待ちたいと考えています。農業者の声をこれから開催される中南地域の会議の中で市からも述べていきます。



黒星病に感染した幼果



黒石市民クラブ
福士 幸雄 議員
(一括方式)

○ 子どもの貧困について、

当市の現状を把握できているのか。

○ 子どもの貧困率については、都道府県および市町村別の数値は発表されておらず、当市の貧困率も不明であり、人数も把握していません。貧困を表す指標は公式に定められていないことから、市独自の集計も難しいものと考えています。

○ 津軽こけし館のあり方について、現状と今後の方向性は。

○ 平成27年度に開催された全国こけし工人フェスティバルにおいて、県外から14人の工人に来ていただいたことから、津軽こけし館は津軽系こけし発祥の地にある資料館として認知されているものと考ええます。ここ数年は、棟方志功が描彩したこけし3体の展示や、こけし収集家による新聞の連載記事とタイアップしたこけしの展示会を開催するなど、来館者が伝統こけしに触れる機会を設けるような企画も実施しています。今後については、伝統こけしの資料館、情報発信源としての事業運営に期待したいと考えています。



常任委員会活動報告

民生福祉、総務教育、経済建設の各常任委員会は、それぞれ関係施設の視察などを実施しました。内容は、次のとおりです。

民生福祉常任委員会①

民生福祉常任委員会（大久保朝泰委員長）は、8月30日に農福連携事業が行われているほ場を視察しました。

農福連携事業とは、せせらぎの園の利用者が就労訓練や雇用の場として農業に携わることで、自立や社会参加を支援するとともに、農業の課題である高齢化・労働力不足を補うため、雇用の促進を図る



農福連携体験ほ場を視察

事業です。5月13日に黒石市

バイオ技術センターのほ場に栽培が比較的容易なカシスとブルーベリーの苗を植樹し、カシスの収穫はなかったものの、ブルーベリー約2^キの収穫があったとのことでした。

委員が、「今後はどんな取り組みをするのか」という質問をしたところ、「来年度はさらなる収穫を予定しており、収穫した果実の販売なども検討している」という回答を得ました。今後も委員会として、事業状況を見守っていきます。

民生福祉常任委員会②

民生福祉常任委員会（大久保朝泰委員長）は、10月4日に津軽広域クリーンセンターを視察しました。

平成28年4月に黒石地区清掃施設組合のし尿処理業務が津軽広域連合に移管されました。この施設は、3市3町2村から構成されており、各市町村からの負担金で運営されています。負担割合は搬入割



津軽広域クリーンセンターを視察

合により決定され、当市は約23割の負担となっています。委員が、「ここで処理されたし尿はどうなるのか」と質問したところ、「水質測定規準値以下まで処理し、岩木川に放流する」という回答を得ました。今後もさまざまな施設の状態を視察していきます。

総務教育常任委員会

総務教育常任委員会（今大介副委員長）は、10月6日に六郷小学校給食用厨房爆発事故が発生した現場と現在自校式給食を実施している2小学校の給食施設を視察しました。

平成27年9月18日に発生した事故現場は、警察の現場検証が終了しておらず、一部そのままの状況で爆発の威力の凄まじさを感じました。事故原因については、警察の捜

査に委ねるしかありませんが、一日も早く原因が究明され、早期に給食が再開できるように進展を注視していきます。

牡丹平小学校と追子野木小学校は現在も自校式給食を実施していることから、厨房施設の現状と安全性を確認しました。「毎日のチェックシートはあるのか」、「ガスボンベ、ガスの管理は怎么样了のか」、「探知機の場所、数は適切なのか」などを市教育委員会に確認し、これからもより安全な給食運営ができるよう常任委員会でも活動していくこととしました。



六郷小学校事故現場等を視察

経済建設常任委員会

経済建設常任委員会（大溝雅昭委員長）は、10月24日に平成27年度地区要望・提言を中心とした現地を視察しました。

市から回答が出ている27年度地区要望の確認のため、常任委員会で緊急性の高いと思われる箇所を中心に選出した13箇所を視察しました。

視察終了後、委員からは「早期対応へ向け今後どのように進めていくのか」という見直しと財源確保が必要、「地区で解決できそうなものは住民の協力のもと各地区で対応するべきでは」、「地区要望のあり方を見直す時期なのでは」といった意見が出されました。財政状況の厳しい当市において、寄せられた全ての要望を解決するにはまだまだ課題が山積しています。今後も、さまざまな角度から地区要望のあり方を検討するなど、一つでも多くの要望を解決できるように活動していくことを確認しました。



市内13箇所を視察



●行政視察報告

黒石市民クラブ

（福士 幸雄）
（工藤 和子）
（佐々木 隆）
（後藤 秀憲）

視察先

長野県須坂市

長野県上田市

（平成28年10月10～12日）

【新規就農者に対する支援（須坂市）「健康幸せづくりプロジェクト事業（上田市）」について】

須坂市では、就農者を確保するためにステップ1からステップ4まで段階的に支援を行っていました。ステップ1は就農相談会への参加や行政窓口での相談、ステップ2は就農体験、ステップ3は熟練農業者の元での里親研修、ステップ4は農地バンク・空き家バンクを活用した就農といったようなきめ細やかな対策でした。しかし、遊休地や空き家が足りなくなっているという問題点もあるようでした。当市には、遊休地や空き家がたくさんあるため、その活用方法としても非常に参考になると思われました。

上田市では、健康長寿を目指し運動の実践と食の改善を行っていました。健康づくりの拠点となる上田市総合保健センターの設置や、健康に関するイベントへの参加でポイントを集める「健康づくりチャレンジポイント制度」といった取り組みをしていました。当市でも、健康マイレージ事業という取り組みを行っています。今後はポイントの用途を増やすなど、事業をさらに拡充していくことで市民の健康長寿につなげていければと感じました。



●行政視察報告

自民・公明クラブ

（村上 隆昭・中田 博文）
（工藤 俊広・大溝 雅昭）
（大久保朝泰・今 大介）
（村上 啓二・北山 一衛）

視察先

福岡県糸島市

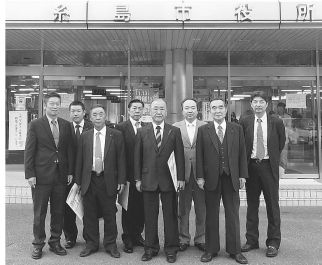
福岡県みやま市

（平成28年10月17～19日）

【農業農村6次産業化支援事業（糸島市）「みやまスマートエネルギー（みやま市）」について】

糸島市では、市内で生産される産品を加工することにより、産品に付加価値を付け生産者の所得向上と農山漁村の活性化を図ることを目的として新商品開発に取り組んでいました。平成23年度から事業を開始し、26年度までにお菓子、ドレッシング、バターなど12商品を開発していました。当市としても黒石1号を加工したお菓子やアスパラ・ニンジン・トマトを使用したスープの開発をしていることから、糸島市の開発、製造、販売方法等を参考にして、6次産業化推進に役立てていきたいと思えます。

みやま市では、エネルギーに関する取り組みの一つとして、市が中心となって太陽光発電所を建設していました。その後、市が資本参加する電力会社「みやまスマートエネルギー株式会社」を設立し、まちで作った電気を、みんなで買って使うというエネルギーの地産地消を行っていました。この取り組みは先駆的な活動としてグッドデザイン金賞を受賞しており、当市としても、エネルギーをどのように活用していくべきかを考えさせられました。



●行政視察報告

日本共産党

（工藤 禎子）

高佑会

（高橋美紀子）

視察先

新潟県小千谷市

新潟県上越市

長野県中野市

長野県小布施町

（平成28年10月25～28日）

【中越大震災の教訓を生かした先進的な防災対策（小千谷市）「健康増進計画（上越市）」
「売れる農業推進室（中野市）」「町並み修復事業と観光振興（小布施町）」について】

小千谷市では、震災前から現在までの状況がわかる、おぢや震災ミュージアム「そなえ館」にて、体験からの教訓、防災の取り組みを学びました。当市も災害が少ないことに油断することなく、防災をすすめるべきではないと考えます。

上越市では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小のために、レセプトの徹底分析によって保健指導対象者を明確化し、効率的、効果的な対応をしていました。健康都市を目指すには、市民の健康状態を細かく分析することが大事だと感じました。

中野市は、多種多様な事業者や団体と連携することで、事業の創出や市のPRに成功しています。生産者と行政だけではなくさまざまな団体や企業を巻き込んでの事業に重要性を感じました。

小布施町では、観光ではなく住みよいまちづくりのための取り組みが進められており、統一された美しい景観と開放された庭などがある珍しい地域でした。当市でも、あるものを最大限に活かし、住みよいまちづくりをする必要があると考えます。



青森県市議会議員研修会に参加しました

平成28年10月5日、弘前市で平成28年度青森県市議会議員研修会が開催され、当市から15人の市議会議員が参加しました。

開会に先立ち、青森県市議会議長会会長である八戸市の吉田淳一議長から、「今回の研修を議員活動に役立ててほしい」という挨拶があり、続いて開催市の葛西憲之弘前市長から挨拶と弘前市のシティプロモーションについての紹介がありました。

研修会では「議員の健康管理について」をテーマに、弘前大学名誉教授の今充氏による講演が行われました。今名誉教授は、自らの経験を通じた医療に関する考え方を



今充氏による講演

に関する考え方をもち、健康か否かというのは何を基準に誰が決めるのかという問題を提起していました。何が一般的に病気であるかは医師の判断ではなく患者の判断やそれぞれの文化に依存しており、健康の基準を人と比べるのではなく自分自身の基準値を知ることが重要であるとのことでした。医者いらずの三種の神器「体重計、体温計、血圧計」を使って、自身の基準値と比較することで、日々、健康管理することを推奨していました。議員として自分自身を正しく評価できる健全な心と体を維持し、使命を果たしてほしいと講演を結びました。



県内の市議会議員が多数参加

「松の湯DE交流」で意見を交換

平成28年11月5日、男女共同参画社会をすすめる黒石ハーモニーの会が主催する「松の湯DE交流～市議会議員と語ろう～」が松の湯交流館で開催されました。市議会からは9人の議員が参加し、黒石中学校の生徒とフリートーク形式で交流しました。

開催に先立ち、主催者である黒石ハーモニーの会の石澤恵美子会長と市議会を代表して北山一衛議長から挨拶があり、続いて意見交換が行われました。

中学生からは、「中学校も給食にしてほしい」という要望や「市議会議員



挨拶をする北山議長

は主にどのような仕事をするのか」、「黒石の発展のために今取り組んでいることは」、「これからどんな黒石にしようと思っているのか」などの質問があり、議員からは回答とともに「黒石のどんな所が好きか」、「市内にどういった施設があったら良いと考えるか」と質問する場面もありました。

2時間という限られた時間でしたが、意見交換を通して日頃の市議会議員の活動や仕事に対して関心を持ってもらえたことや、これからの黒石を担っていく世代と黒石の未来について語り合えたことは議員にとって貴重な経験となりました。



黒石中学校の生徒と交流

編集後記

早いもので今年も師走を迎えました。さまざまなニュースが世の中を駆け巡る日々が続きます。議会だよりも号を重ねるたびにどんな記事を市民の皆さんに届けようかと委員会と協議を重ね、限られた紙面の中でできるだけ議員の活動が伝わるように努めています。今号では各議案の賛否や委員会の活動状況、行政視察の様子等を紹介しています。表紙には手話言語条例が可決された時の様子を掲載しました。県内初の条例制定により、一つ議会としての責任を果たせたように思います。今後、より良い議会だよりをお届けできるように努めていきます。

工藤 俊広

議会だより 編集特別委員会

- 委員長 工藤 俊広
- 委員 大藤 朝泰
- 委員 高橋 和子
- 委員 今橋 美紀
- 委員 三上 大介
- 委員 廣大

お問い合わせ先

黒石市議会事務局

〒036-10396
黒石市大字市ノ町11番地1号
電話 0172-5212129
FAX 0172-5317410

